気分は日本代表？

川西・中郡小にW杯複製球

ゆうちょ銀

サッカーのワールドカップ（W杯）ブラジル大会に協賛するゆうちょ銀行は、郵便局を通じて全国各地の小学校などに公式球「ブラズーカ」のレプリカを1個ずつ寄贈している。県内では全小学校を含む282校に贈られる予定で、24日には川西町中郡小（原田寧校長）で贈呈式が行われた。

ブラズーカはブラジル国民の誇りを表す言葉で、十字形の6枚のパネルを貼り合わせた独特のデザインになっている。レプリカは公式球より一回り小さい小学生用の4号球で、W杯開催に合わせて各郵便局の窓口に展示。子どもたちにボールを有効活用してもらおうと、各地の小学校などに順次プレゼントすることにしている。

山本英典局長（左）からボールを受け取る子どもたち＝川西町中郡小

贈呈式では、中郡郵便局の山本英典局長が、サッカースポーツ少年団に所属する6年の佐藤雄大君(12)伊藤栄至君(11)清野ハル君(11)に「皆さんが中郡の星になることを期待しています」とレプリカを手渡した。「ブラズーカだ。すっげえ」と感激した3人は奮闘する日本代表に対して「得点を奪って決勝トーナメントに進んでほしい」と期待を込めていた。

★ブラズーカです

「長所見つけ練習して」

酒井選手（酒田出身）故郷で卓球教室

酒田市出身で、卓球の国際プロツアーに出場している酒井春香選手(23)＝ミキハウス＝の卓球教室が24日、酒田市広野小体育館で開かれ、地元の小中高生約50人がプロの技に触れた。

酒井選手は2003年、黒森小6年の時に全日本卓球選手権ホープスの部（小学6年生以下）で優勝。さらなるレベルアップを目指して大阪府の強豪・四天王寺羽曳丘中、四天王寺高に進んだ。高校3年時に全国高校総体女子ダブルスで石川佳純選手（12年のロンドン五輪団体銀メダリスト）とのペアで優勝。11年の全日本選手権女子ダブルスでベスト8に入り、今年1月から国際プロツアーに挑戦している。

卓球教室は、16年をめどに総合型地域スポーツクラブの設立を目指す「川南スポーツクラブ設立準備委員会」（加藤雅広会長）が主催。酒井選手は17日から帰省中で、同委員会の依頼を快く引き受けた。

子どもたちへの指導では「体とラケットを近づけて打つのが基本で、安定して球が打てる。そこから大きなスイングにしていって」などと助言し、参加者は一流選手の話に真剣な表情で耳を傾けていた。酒井選手は「卓球の勝敗は身体能力だけでは決まらない。手先の感覚、試合運びのうまさで補える。自分の長所を見つけ、たくさん練習してほしい」と話していた。

酒井春香選手（中央）が球の打ち方などを指導した卓球教室＝酒田市広野小体育館

アジア大会

大会（韓国・仁川）野球競技での優勝を目指した強化合宿。社会人代表で構成する侍ジャパンは8月1日に鶴岡市に入り、4泊5日の日程で滞在する。同球場では2日から3日間にわたって打撃練習などを行い、本県や東の試合に臨む。代表メンバーは7月16日に発表される予定。将来の日本球界を背負う選手がそろう強化合宿は、プロ野球スカウト陣の注目の場となる可能性も高い。

小真木原野球場は1999年に開設。総天然芝があり、過去にも日本代表の強化合宿や代表選考合宿などが行われた。今年4月にはスコアボードをリニューアル。

渋谷会長は「地域の活性化、本県野球の強化につながる。夢を持つ子どもたちや、さらにはその指導者たちに日本代表の一流のプレーを見てもらいたい」と話していた。

侍ジャパン
鶴岡市小真

24日、競技運営面で国内の競技団体や各国オリンピック委員会との調整役となる「スポーツディレクター」に04年アテネ五輪陸上男子ハンマー投げ金メダリストの室伏広治選手(39)＝ミズノ＝を選任し、森喜朗会長が東京都庁で任命書を手渡